



5万分の1地質図幅の新刊

館地域の地質

TATE

5万分の1地質図幅 地域地質研究報告

著者 石田正夫 (北海道支所)
 垣見俊弘 (地質部)
 平山次郎 (")
 秦光男 (")

発行 工業技術院地質調査所
 取扱先 地学文献センター (0423)62-5050

- 館地域は 江差追分節で名高日本海に面する江差町の東隣に位置する。図幅地域は 比較的急峻な山地によって囲まれ 厚沢部川に沿って西部だけが開口する東西約12km 南北約15kmの館盆地が形成されている。この特異な地ぼうの盆地は 構成する地質ならびに地質構造を反映しているものである。
- 中古生界：粘板岩 砂岩 チャートを主体とし 石灰岩を伴うフリッシュ型の深海性地向斜堆積物である。従来から松前層群として一括されていたが その後 隣接地域からサンゴ 紡錘虫 コノドントなどの産出によって 江差・上磯の各地塊の古期岩は それぞれ石炭紀・三畳紀に属する

ものと考えられている。ここでは 松前層群を再定義し 後者を上磯層群として分離している。

- 新第三系： 檜山層群は 中新世中期から後期にかけての一連の地向斜性堆積物からなる地層の総称である。江差・乙部地塊と上磯地塊との間に堆積し 典型的な堆積盆地を形成している。
- 館堆積盆地において 檜山層群を構成する木古内層 厚沢部層および館層中に挟まれる鍵層として有効な多数の凝灰岩について美事な追跡が行なわれ 館向斜の両翼における檜山層群の堆積量および層相の変化について 詳細に記述されている。この結果をもとに 前者は基盤をなす地塊の昇降運動の影響による堆積の中心の移動 後者は安野呂火山砕屑物をもたらした火成活動に起因するものと考えられている。
- 館向斜は非対称性であり 檜山層群堆積時から発達し 鶴層堆積後に完成したものである。このように 館堆積盆地を層相・層厚・古流系・地質構造など いろいろの角度から検討しているのは 非常に興味深いことである。

地質ニュース	第266号	10月号
	定価 ¥ 380	〒 50
昭和51年10月1日	発行	
編集	工業技術院 地質調査所	
発行人	林 久 雄	
発行所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (265) 0 9 5 1 (代表)	
	振替口座 東京 3 2 4 6 6	
総発売元	大蔵省印刷局 政府刊行物仕入部	
	東京都港区赤坂東町2	
	Tel. (03) 582-4 8 6 6	
印刷所	共同印刷株式会社	